野山の花 ― 身近な山野草の食効・薬効 ―

城西大学薬学部　白瀧　義明（*SHIRATAKI Yoshiaki*）

ウワミズザクラ *Padus grayana* (Maxim.) C.K. Schneid.（*Prunus grayana* Maxim.）（バラ科 Rosaceae）

連絡先：城西大学薬学部
shiratak@josai.ac.jp

4 月，木々が芽吹き，山々が萌黄色に染まる頃，山歩きをすると多くの枝に真っ白いブラシのような花を付けた高さ約 10 ～ 15 m の木を見かけます。これがウワミズザクラです。本植物は別名をハハカ（波波迦），コンゴウザクラといい，北海道（石狩平野以南），本州，四国，九州（熊本県南部まで），中国中部に分布し，山野でよく見られる落葉高木です。日照と小川沿いなどのやや湿った環境を好み，若い枝は紫褐色で古い樹皮は褐紫色，横に長い多数の皮目があり，葉は新しく出た枝に互生し，有柄で長楕円形，長さ 6 ～ 9 cm，幅 3 ～ 5 cm で先が急に細くなり，縁には鋸歯があり，腺点は葉身基部にあります。葉や花，折った枝などには coumarin のような強い香りがし，4 ～ 5 月，長さ 10 cm ほどの白い総状花序を枝いっぱいにつけ

写真 1　ウワミズザクラ（花）

写真 2　ウワミズザクラ（花穂と未熟な果実）

写真 3　ウワミズザクラ（赤熟した果実）

写真 4　ウワミズザクラ（樹皮）

写真 5　杏仁香（杏仁子）

写真 6　イヌザクラ（花）

ます。雄しべは多数で花弁より長く核果は直径約 8 mm，先のとがった卵型で始め黄色く，初夏にかけて赤から黒く熟します。材は，軽く強靭で緻密な木目をもち，床柱や器具材，彫刻等に用いられます。若い花穂と未熟な果実は香りが良く，未熟な果実は，10% 程度の塩漬けにして日本料理の前菜に使用され，新潟県の地方では，これを杏仁香（杏仁子）といいます。また，赤熟した果実は，3 倍量のホワイトリカーに約 3 ヶ月，浸した後，果実を引き上げ果実酒とします。近縁のエゾノウワミズザクラ *P. padus* L. は，ユーラシア大陸北部に広く分布し，アイヌは，樹皮を茶の代用に用い，ヨーロッパでは，果実をジンやウイスキーに入れて味をつけるのに用いられます。新鮮な葉や樹皮には青酸配糖体の prunasin が含まれ，水蒸気蒸留した液は鎮咳去痰薬として杏仁水の代用にされます。Prunasin は果実内に含まれる酵素 emulsin (β-glucosidase) によって mandelonitrile と glucose に加水分解され，さらに benzaldehyde と青酸（シアン化水素：HCN）に分解されます。青酸は微量で，呼吸興奮を起こしますが，ウワミズザクラにもエゾノウワミズザクラと同様に prunasin が含まれているものと思われます。

ウワミズザクラの名は，シカの肩甲骨の裏側に溝をつけて焼く古代日本の占いで，この木（波波迦）の枝が燃やされたため，ウラミゾザクラ「占（裏）溝桜」とよばれ，それが転じて現在の和名になったとする説，また，古代の亀卜（亀甲占い）で溝を彫った板（波波迦）に使われ，この材の表面に溝を彫って使ったことからウワミゾザクラ（上溝桜）とよばれ，それが訛ったとする説などがありますが，いずれにしても古代より占いに使われたことからウワミズザクラとよばれるようになりました。亀卜とは，カメの甲羅を使う卜占

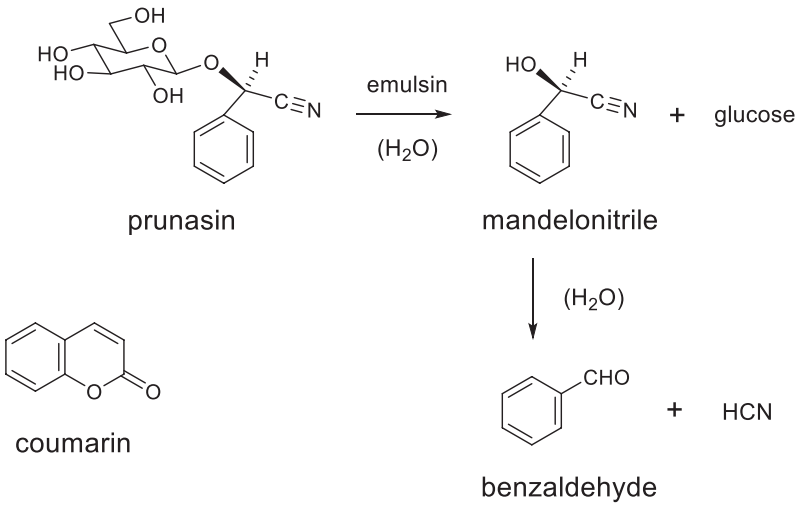

図 1　成分の構造式

の一種で，カメの甲羅に熱を加え生じたヒビの形状を観て占いをすることです。つまり，加工した亀の甲羅の溝や穴を開けた部分に焼いた熱い波波迦木（ウワミズザクラ）を押し付け，入ったヒビの状態から吉凶や方角を占うものです。亀卜は古代中国の殷の時代に盛んに行われましたが，漢の時代には衰え始め唐代になると絶えてしまいました。日本には奈良時代に伝来し，宮中関連の卜占は，それまでに行われていたニホンジカの肩甲骨を使った太占からに亀卜へと変わっていったようです。当時の支配層は，対馬国などの卜部を神祇官の管轄とし，亀卜の手法と技術の伝承を行なわせましたが，卜部の技術は秘事であり口伝であったため，材料（カメの種類や甲羅の部位など）や技術については，今も未解明な部分が数多くあります。

亀卜は，21 世紀の現代でも宮中行事や各地の神社の儀式で行われており，宮中行事では，大嘗祭で使用するイネと粟の採取地の方角（悠紀と主基の国）を決定する際に用いられます。2019 年（令和元年）5 月 13 日に皇居の宮中三殿で「斎田点定の儀」が行われましたが，2018 年に行われた準備作業では，アオウミガメの甲羅は東京都小笠原村で調達され，ウワミズザクラ（波波迦の木）は，2019 年 1 月，奈良県橿原市にある天野香具山神社で採取されました。

よく似たイヌザクラ（犬桜）*Prunus buergeriana* は，別名をシロザクラといい，花序の下（花序枝）に葉がなく樹皮は灰白色で光沢があります。一方，ウワミズザクラは花序枝に葉があり，また，樹皮には横に長い皮目があり，葉の鋸歯が細かく鋭いので区別されます。